

ホップ・ステップ



4/2～3 21年度最初の道コンです。前学年までの内容だったので点数は採れていませんでした！



道コンの結果を踏まえた面談です。来年の入試から裁量問題が無くなり100点満点にと大きく変わりますよ。



差し入れありがとうございます。18期生の田垣さんと佐藤さん(旧姓)の二人が生まれし子どもを見せに来てくれました。高校卒業後、あっともも10年です。二人とも市立病院の看護師です。

新年度が始まり、もう一月経ちました。コロナ禍は取まる気配を見せず、いろんな事が制約されストレスのたまる日常です。そんな中でも特に中学生、高校生の皆さんは近い将来に、高校入試や大学入試、そして就職などのハードルを越えなければなりません。すでに、10万人が職を失い1300社が倒産しています。この傾向は今後も続き、いつ立ち直るのか見当のつかない状況です。鋼路市でも8月には基幹産業である日本製紙が撤退します。この2年続きのコロナ禍の影響でデジタル、IT、AIなどの技術が社会に急速な変化をもたらしています。皆さんの将来に大きく影響します。テレワークやオンライン授業などという環境は、決して私たちにあって便利なものでも革新的なものでは無いのです。それによって失うコミュニケーション不足は、とても問題なのです。それだけでなくコミュニケーション力の不足が指摘される皆さん、必要なのは人と人の関係です。

塾時代から今までを振り返って
私にとってステップゼミナールは、単に学問の正しさを教えてくれる場所ではありません。主体的に生きる術を学ぶ修行の場だと考えています。親や学校の先生の意思ではなく、自分の意思で決断して未来を切り開く。そして、その結果が良くも悪くも全て自己責任ということ。塾時代の自分を振り返ると「勉強をさせられる」というよりは「自ら望んで勉強をする」という意識の方が強かったです。これは、勉強した先の輝かしい未来が明確にイメージできていたからだと考えています。入塾以前までの私は、勉強は好きでも嫌いでもなく普通でした。それなりの高校に進学して、それなりの会社に就職して、それなりに鋼路で生きていこうと思っていました。中学2年の2月、幸運にもステップゼミナールに出会うことができました。塾長との初面談では進路や塾の卒業生の話、今後の世界情勢など様々なことを熱く語ってくれました。正直、14歳の自分には全

てを理解することはできません。ただ、人生をそれなりに終わらせてはいけな

いことだけは理解できました。そこで初めて「技術者になる」という明確な夢ができました。中学では高専に合格すること、高専では電子工学の専門性を高めること、大学では多くの価値観に触れることなど、その時々によって目標は異なりますが、どれも一つの夢に近づくための通過点です。このように、一度明確な夢を持つとそこに向かって突っ走ることが出来ます。あれから約10年、ついに私は技術者になることができました。夢を叶えたばかりの私ですが、既に新しい夢があります。それは新しい価値を創造できる技術者になることです。社会に出てからも夢や目標を都度アップデートしていく、自分を成長させ続けたいと考えています。ところで、皆さんはどんな夢を持っていますか。極端な例を挙げましょう。良い高校、良い大学に進学して大企業に勤めて一生安泰。大変理想的で素晴らしいことですが、私はこれを「世間一般」の理想だと思っています。

私たちは、知らぬ間に世間一般の理想を自分の理想だと勘違いしてしまうのです。決してこの例のように生きることが悪いとは言いません。私が言いたいのは、他人の価値観で選択した人生は他人の人生を生きたことと同じことです。自分の人生なのに主人公が自分ではないのはつまらないからです。お金があっても永遠に満たされず、どこか物足りなさを感じるのではないのでしょうか。本来自分が向きたい方向と違う努力をしても頑張れるはずがないと思います。

在校生の皆さんにはまず、一生かけてでも向きたい方向を決め、その瞬間から全力で突き進んでほしいと思います。また、その準備として日ごろから多くの価値観に触れ、自分独自の価値観を形成していくことがとても大切だと思います。

頑張ってください!!!

斗内凌平
22期生の斗内君は鶴居中学校から鋼路高専へ、卒業後は豊橋技術科学大学へ編入し、その後同大学院に進み来年卒業します。

4月には希望する医療系企業への就職も内定しました。

自分の勉強してきたことを社会で役に立つ技術者となるための努力を積み重ね、夢を実現したのです。夢や目標に向かって積み重ねれば斗内君のように夢が叶います。大変な社会の変化の中で生きて行かなければならないみんなも、斗内君に続けるように自分の将来に向かって日々努力をして下さい！
努力は自分を裏切らないのですよ。

ざっと数えてみました、塾卒業生で看護師になった人の人数を。把握しているだけで30人もいました。コロナ禍の中の医療の現場で仕事をする人たちの現状が毎日のように報道されています。過酷な状況の中でも、看護師の人たちは大きなリスクを負って使命感を持って日々大変な仕事をしています。やりがいのある仕事とは、そういうことなのだと思います。社会の役に立つこと、弱い立場に立つ人たちに寄り添うような、そんな目標や夢を持つ大人になって欲しいと思います。

昨日の鋼路新聞の一面に「授業の質高め学力向上へ」推進委員会立ち上げという記事が載っていました。まだわかっていないのです！
大事なことは学力以前に「意識」なのです。意識が変わらなければ学力は向上しないのです!!!

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土
	休塾 鳥取修(〜1)					富原宿研(〜26)		休塾				富原修(〜21)	附属修(〜21)		休塾 鳥取修(〜18)							休塾					子どもの日 休塾	みどりの日 休塾	憲法記念日 休塾	休塾

携帯・スマホ持ち込み禁止！

ストップ 過保護・過干渉！

コロナの感染が広がっています。マスク、手洗い、消毒を！

5月の予定

モンゴルの高専率エンジニア、発祥の地・日本で奮闘中

第一工業製薬の滋賀工場で働くエンフバヤル・エンフウヤガさん =2021年3月23日佐藤剛志撮影



中学校卒業後に進む5年制の高等教育機関で、出身者の多くがエンジニアとして活躍している「高等専門学校」(高専)。日本式の高専制度はモンゴルでも導入され、2014年に3校の高専が開校した。卒業生らは母国だけでなく、日本国内の企業や編入学した大学などでも仕事や勉学に励んでいる。

モンゴルはロシアと中国に隣接する内陸国で、人口は約320万人。鉱物資源に恵まれるが多くはそのまま輸出され、国内で付加価値を生む産業振興や技術者の育成が長年の課題となっている。

モンゴルでは1990年代以降、母国の産業発展に貢献しようと多くの若者が日本の高専に留学した。卒業生は帰国後に各界で活躍しており、教育大臣になった人もいる。彼らの間で自国に高専教育を導入する機運が高まり、日本でも高専の元教員らが呼応した。2009年には高専関係者などが「モンゴルに日本式高専を創る支援の会」を設立し、精力的に活動してきた。

14年になり、首都ウランバートルに国立モンゴル科学技術大学附属高専、私立の新モンゴル高専とモンゴル工業技術大学附属高専が開校した。19年6月には、1期生として3校で計142人が卒業している。

3月下旬、滋賀県東近江市にある第一工業製薬の滋賀工場。エンフバヤル・エンフウヤガさん(20)が、ドラフトチャンバーと呼ばれる箱状の排気装置で界面活性剤の成分を分析していた。新モンゴル高専の1期生で、19年8月からここで働いている。

中学生の時、5年一貫の新しい学校ができると知って興味を持った。高専では「化学について、理論と実践の両面からじっくり学べて楽しかった」と語る。化学メーカーや工場で働きたかったが国内には少なく、日本での就職を希望した。現在の仕事にやりがいを感じているといい、「もっといろんな仕事を覚えて会社に貢献し、資格試験にも挑戦したい」と意欲的だ。

3月まで滋賀工場長だった清水幸治工さん(51)は「真剣に仕事に取り組む姿勢は周囲から高く評価されており、すでにいなくては困る重要な戦力になっている。明るく朗らかな人柄で、コミュニケーション力も高い」と話す。同社はもともと高専卒業生を多く採用しており、教育内容に信頼を寄せていた。全社でダイバーシティ(多様性)推進に力を入れており、過去にも日本の高専を卒業したラオス出身者を採用している。昨年にも新モンゴル高専の卒業生を採用した。

3高専の教育課程は基本的には日本と同じで、学生は日本語学習にも力を入れる。コロナ禍で来日できていない人が多いが、19年と20年の卒業生240人中、59人が日本での就職を決めている。東京都品川区は17年から、技術者不足に悩む区内の製造業がモンゴル高専生をインターンシップで受け入れる事業を展開。これまでに10人近くの就職が決まっているという。千葉商工会議所(千葉県)でも、新年度中に同様の取り組みを始める予定だ。

全国51の国立高専を設置・運営する国立高専機構(東京都八王子市)は、16年にウランバートルにリエゾンオフィスを開設した。3高専の教育・研究力強化のため、モンゴル語の教材作成や教員研修などで支援を実施。日本企業への就職希望者にも支援している。日本で高専生を対象に開催している「ディープラーニングコンテスト」(DCON(ディーコン))への3高専合同チームの参加も後押しした。

高専機構の谷口功(いさお)理事長は「実験・実習の面では設備などに改善の余地はあるが、もともと真面目な学生が多く、いい人材が育っている」として、日本の企業には実務を通じてさらに力を伸ばせる丁寧な教育を期待する。「日本人社員とは異なる発想などから、企業側が得るものも多いはず。モンゴルの産業を変えていく人材の育成に協力することは、必ずいい形で日本に返ってくる」と訴える。

モンゴルの高専を卒業後、日本の高専専攻科や大学に留学する人もいる。豊橋技術科学大学(愛知県豊橋市)では、学部3年に編入学した新モンゴル高専の1期生5人が学ぶ。同大は76年、新潟県長岡市の長岡技術科学大学と共に、国内の高専卒業生の編入学先として設立された。

ガントゴス・ビルグーンさん(19)は子どもの頃から、モンゴルでの石炭暖房による深刻な大気汚染を解決したいと考えていた。「高専では大学より2年早く卒業研究をして、実践的な技術も身につくと知り、夢の実現により近いと思った」。日本式の高専で学ぶうち、日本の大学や企業でさらに経験を積みたくなった。将来は石炭に代わる環境に優しい安価な暖房方法を開発したいという。

同大スーパーグローバル大学推進室長の高嶋孝明教授は「コロナ禍で大変な時だったが、本当に優秀な学生に来てもらった。彼らのひたむきさに刺激されて、日本人学生のマイン

ドにもいい影響が出てくればと期待している」と話す。

国立高専機構によると、1期生と2期生のうち、58人がモンゴル国内で、25人が日本での進学を決めた。これは進路未定も含めた全体の約35%になる。高専専攻科では、仙台高専に4人が入学するなどしている。

「高専」タイやベトナムでも

3高専では間もなく3期生が卒業する。モンゴル工業技術大学附属高専のムンフオチル・セルゲレン校長は「当初は新しい学校の説明に苦労したが、高専を正式に高等教育機関と位置づける法律が16年にでき、社会的な認知度が増した。モンゴルの豊富な土地と資源で産業を興して、日本との架け橋となる人材を育てていきたい」と話す。日本の高専や大学などとの共同研究にも強い期待を寄せる。

コロナ禍で実験や実習を遠隔でやりづらいつという日本と共通の困難にも直面した。6、7割の学生はスマートフォンで授業を受ける状況だったといい、環境改善が急務と考えている。

新モンゴル高専のエルデネ・ツェンデスレン校長は「ものづくりができる技術者を育てることの意味について、社会全体の理解が増してきた。高専での教育をよりよいものにするためにも、中学校段階での理科や数学の教育に力を入れる必要がある」。モンゴル科学技術大学附属高専のダライ・ボルドバートル校長は「現状ではウランバートルから通学する学生が中心だが、日本の高専のように寮を整備することで、地方の優秀な学生も入学しやすい環境を整えたい」と語る。モンゴルだけでなく、タイやベトナムでも高専や高専をモデルにした教育機関が設立されており、国立高専機構では様々な支援を行っている。(佐藤剛志)

2021.4.3 朝日新聞デジタル



社会における順応性？ それとも生活力の低下？ 解 壺一郎

時代の流れや社会の変化は止めがたいし、それが世の中の「進歩」「革新」の根底にもなるので、否定するものではないのだが、たまに「これでいいのだろうか」と感じることもある。

これも以前、別の場所で書いたことがあるのだが、もう10年ほど前、親戚が集まってちょっとした会食をした際の話だ。当時、19歳の息子と13歳の娘を伴い、一家で出席した。

円テーブルに各家族が座り、ビールやコーラ、オレンジジュース、ウーロン茶といったアルコールやソフトドリンクの瓶が並べられた。おのおの好みの飲み物を取って、談笑しながら飲み始めた。と、子供たちの様子がおかしい。栓抜きを眺めている。早く瓶の王冠を抜いて、好きな飲み物を飲めばいいのに。2人は、栓抜きを手にとって、瓶入りのコーラを開けようとし始めた。が、「これ、どう使うのか分からない」と息子。娘も「私も分からない」。王冠にあてがいながら、どのように使うのか錯誤している。

親の責任であるが、まさか栓抜きの使い方が分からないとは！学力低下どころではない。人類ならば、誰でも分かる(であろう)栓抜きが使えないなんて！ちょっと気の利いたチンパンジーなら、コーラの王冠ぐらい栓抜きで軽々と開けるであろう。十数年生きてきてチンパンジー以下の出来だ。教育大失敗である。生活力の低下である。

彼らの言い分はこうだった。「家で瓶入りの飲み物は飲んでいない。ペットボトル入りか缶入りである。そもそも、アルコール類を含めて瓶入りの飲料は、家にはないではないか。したがって栓抜きを使用する機会がなく、使い方が分からなくても当然である」

言われてみれば、ビールも缶ビールだ。ジュース類は紙パックかペットボトルで、確かに瓶入りの飲料はない。私が子供のころに比べて、瓶入り飲料は圧倒的に少なくなった。社会の変化ではある。だが、虚を突かれた感じだ。「栓抜きの使用」など生活の中の基本動作だと思っていたから、子供が使えないなど想像もしていなかった。

宴席で錯誤していた2人は、それでもなんとかテコの原理に気がついて、王冠を開けることに成功し、無事にコーラを飲むに至った。親戚はこの事態に気がつかず、この秘密は我が家のみにとどめられた。

今もそうだが、2人はレトロな缶切りの使い方も知らないだろう。今どきの缶詰は、缶切りなんぞ使わない。ひょっとすると、マッチで火も付けられぬやもしれぬ。

生活スタイルや製品の変化で使わなくなり、使いにくくなってきたものは多い。食事にはフォークとスプーンを使うことで、箸から遠ざかる。缶切りだって、それを使わずに済む缶詰が大半を占める。マッチを使う場面は圧倒的に少なくなったし、靴のひもをしっかり結べない子もいるという。ひも靴よりも履きやすいファスナー付きの靴が出回っているからか。

言い始めるときりがないが、いずれも「手間がかからず便利にした結果である」というのが、共通している。便利になった結果、使用しなくなったものは当然廃れていくのであるが、「それでいいのか？」という問題意識がある。

もっとも「それでもいいのだ」という考え方だってある。

栓抜きが使えなくても、缶切りで缶が開けられなくても、生活上の不便はないのであるから「(使えたほうがよろしいが)目くじらを立てる問題ではない」。社会や生活の変化に伴い使える道具は変遷するのであるから、当然だとする向きも。むしろ、今どきはスマートフォンやパソコンを使えないほうが、社会生活に支障をきたすだろう。

「学力低下」を憂う声は今もあるが、この手の「生活力低下」(といえるかどうか)が問題視されることは、あまりない。釈然としない人は多いだろうが、「何が問題なのか」「それでどのような不都合があるか」「人生においてマイナスになるか」といったことに明確に答えにくいからだろう。受験に直接結びつくことではないけれど、しかし「これでいいのだろうか」と思うのは、私が年をとったからだけではないような気がするのだ。